



梅雨も明けだんだん蒸し暑くなってきましたね

毎年この時期に訪れる**熱中症**・・・

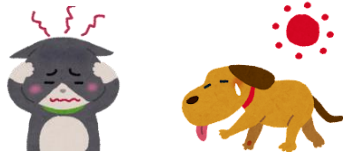
その恐ろしさと対策についてのお話です。

【熱中症とは？】

高体温や脱水になることで、体温調節機能が働かなくなり全身に生じる疾患。
汗をかき体温調節をしますが、実は人と犬・猫では大きく違ってきます。



- 全身汗をかく
- 水分摂取や涼しい所へ避難
- 自分で SOS も出せる



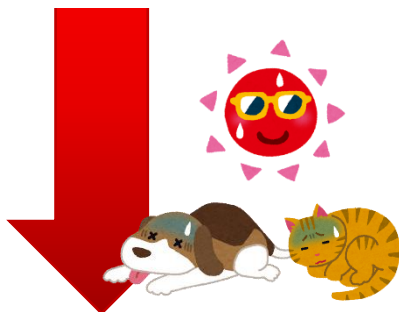
- 体の一部でしか汗をかけない
(肉球・鼻の一部)
- パンティングや毛づくろいをすることで
体温を下げようとする
- SOS が出たの時にはすでに重症なことも

【熱中症の症状】

- ✓ 普段より息遣いが荒い
- ✓ 元気、食欲がない
- ✓ 体が熱い
- ✓ 可視粘膜(舌や歯茎)が赤い
- ✓ 下痢、嘔吐がみられる
- ✓ **ガチョウのように「ガーガー」と鳴く**
- ✓ **ぐったりしている**
- ✓ **痙攣している**

下に向かっていくにつれ

症状悪化・重症



熱中症は、最悪の場合**死に至る**恐ろしい病気です。

犬の基礎体温は、38.0℃~39.3℃くらいまで！

【どのように過ごして防ぐか？】

室温・湿度

温度は、エアコンをうまく利用し犬種ごと変わってきますが

25℃~28℃くらいをキープ！

カーテンで日差しを遮るのも効果的！

湿度が見落としがち…この時期多湿になりがちです。

多湿は、パンティング機能がうまく働かず体温調節の妨げに。

湿度は、**60%を超えない**よう除湿意識を！



お散歩

基礎体温が高いうえ、地面に近い
日中コンクリートの照り返しで熱く

日の落ちた夕方のお散歩に出るだけでも
キケンになる場合も！

オススメは、**早朝散歩！**

行く前に私たちの手でコンクリートを触り
チェックしましょう。



水分補給

新鮮なお水をいつでも飲めるよう

頭数+1の設置を！



車内

たとえ窓を開けていたとしても
空調がないと車内温度は**急上昇**します
絶対車内に置いていかないで！



もしも、熱中症の疑いがあればとにかく冷やしましょう！

足先や太い血管がある**(首・脇の下・太ももの付け根)**を重点的に。
ただ冷やしすぎもキケンなため、病院に電話し指示を仰ぎましょう。

熱中症になったら**早期に処置**できるかどうか**命をつなぐカギ！**